学友会ニュース

No. 272

発行日:令和7年8月25日

発 行: 芦屋川カレッジ学友会

https://ac-gakuyukai.com







講師 木下唯志氏 ホ下サーカス株式会社 代表取締役社長



木下大サーカス

木下大サーカスは「世界三大サーカス」の一つ、世界のサーカス界で1、2を競っています。1902年に設立。日本はもちろん、世界10カ国以上から集まったパフォーマーが、日本の伝統芸や動物たちの曲芸、世界最先端の技を多彩に繰り広げる日本で1番すごいサーカスです。3カ月前後の公演を年に3~4回行い、年間100万人の観客を魅了しています。130万人を超えた年もあります。

講師プロフィール

1950年岡山県生まれ。明治大学経営学部を卒業後、1974年に木下サーカスに入社。空中ブランコのフライヤーも経験し、1990年に4代目社長に就任しました。就任時には約10億円の負債を抱えながらも、約10年で完済し経営を立て直しました。剣道三段の腕前を持ち、2011年には日本人として初めてモンテカルロ国際サーカスフェスティバルの審査員に選出されています。







開演時間を14時から10時に変更しました

自 由 投 稿 戦没画学生たちの切なき青春の叫び「無言館」と青春を特攻隊に 捧げた「平和記念館」 38 期 大橋良造

この夏の初めに一度は訪れたいと願っていた「無言館」と「平和記念館」を訪れる機会を得ました。芦カレ38期の旅行の会メンバーと共に、まず信州上田にある「無言館」へ。この美術館は、戦争で志半ばに命を落とした画学生たちの絵画を所蔵し、彼らの慰霊のため1997年に開館しました。

館内では、日高安典さんの「裸婦」という絵の前に立ち、彼が「生きて帰りこの絵の続きを描きたい」という言葉を残して戦場へ向かったことに胸を打たれました。彼の「兵営日記」には、「秋立つ鳥の飛ぶ方をみよ 秋立ちていつ帰りこん迷い鳥 秋立ちていつ帰りこんツントラの苔」という言葉が残されており、これはフィリピンでの壮絶な戦死を前にしたものとされています。戦争が世の条理を狂わせるものであることを痛感しました。

次に訪れたのは、千キロ以上離れた鹿児島県知覧にある平和記念館です。ここは沖縄戦で、片道燃料で 飛び立った特攻隊員の若者たちの遺影が展示されており、彼らが国のために散っていったことに深い感慨

を覚えました。知覧はかつて薩摩藩の外堀として重要な地でしたが、特攻隊の兵舎が作られ「地獄の知覧」と呼ばれた場所でもあります。

水口文乃著「知覧からの手紙」によると特攻隊員の穴沢利夫少尉(享年23歳)は、出撃の直前まで「三角兵舎」で過ごし、思いを寄せる女性に「あなたがために純情一路に生き抜けたことを嬉しく思いながら征ける幸せ者であった」と書き送っていたといいます。また、彼ら若い特攻隊員に母のように慕われた富屋食堂の鳥浜トメさんは、憲兵の目を盗んで彼らを支え、今日まで知覧の大きな存在となっています。

今回の旅は、戦後80年を迎えるにあたり、今日の平和が多くの尊い命の上に成り立っていることを改めて心に刻む機会となりました。



隧

道

展

示

7.15 ^{掲載していま}

32期 33期



鳥川 美雄



芦屋・山手緑地



小柴 俊夫



菊正宗記念館にて



アジサイとコーヒーミル



奥 純江

美術教室にて モデルの女性

2025 学友会 秋の美術展

久我 三和子 ご

2025 学友会 秋の音楽会

と き 10月6日(月) ところ ルナ・ホール

各期の音楽同好会が一同に会しての 演奏会。9 チームが参加します。



と き 11月6日~10日 ところ 市民センター301・302室 【出展作品】絵画(油彩画、水彩画、日本画、 水墨画)、写真、書、工芸(陶器・彫刻)

皆さまの作品募集中

2025 学友会 親睦ゴルフ大会

前田 穣

と き 10月22日(水)

各期のゴルフ同好会代表者にお申込み

ところ ロータリーゴルフ倶楽部 下さい。 実行委員長 27 期 萩野勇



11/27 秋のバス旅行 伊勢神宮(外宮・内宮)、おかげ横丁

詳細は案内チラシに